

【1. 日本側拠点機関名】

京都府立医科大学

【2. 日本側協力機関名】

東京大学、理化学研究所、国際医療研究センター、長寿医療研究センター

【3. 研究課題名】

国際ゲノム研究を基盤とした難治性眼疾患病態解明と治療戦略構築のための研究拠点形成

【4. 研究分野】

疾患克服と個別化医療推進のための国際ゲノム研究

【5. 実施期間】

平成27年4月～令和2年12月 5年9ヶ月間

【6. 交流相手国との中核的な国際研究交流拠点形成】

本研究事業開始の平成27（2015）年度の国際ネットワークは、日本を中心に、韓国（ヨンセ大学、ソウル大学、チョンナン大学）、ブラジル（サンパウロ連邦大学）、イギリス（バーミンガム大学、リバプール大学、ムア・フィールズ・アイ・ホスピタル）、台湾（長庚大学）、タイ（マヒド大学、チュラロンコーン大学）、ドイツ（エルランゲン・ニュルンベルク大学）の7か国のネットワークであったが、2年目の平成28（2016）年度には、当初第3国として参加していた米国（ロヨラ大学、ハーバード大学、コロラド大学、ウェイルコーネル医科大学）が共同研究相手国に加わり国際共同研究ネットワークは8か国に拡大した。さらに、平成30（2018）年度には、インド（シュロフ慈善眼科病院、LV プラサード眼研究所、サンカーラ・ネスララヤ病院）、シンガポール（シンガポール国立アイセンター）、カナダ（トロント大学）が加わり、11か国のネットワークが形成されている。本研究事業の結果、国際共同研究の成果として、著明な国際医学研究雑誌に25個の論文（内、10個は日本人研究者が責任著者）を掲載することができた。

【7. 次世代の中核を担う若手研究者の育成】

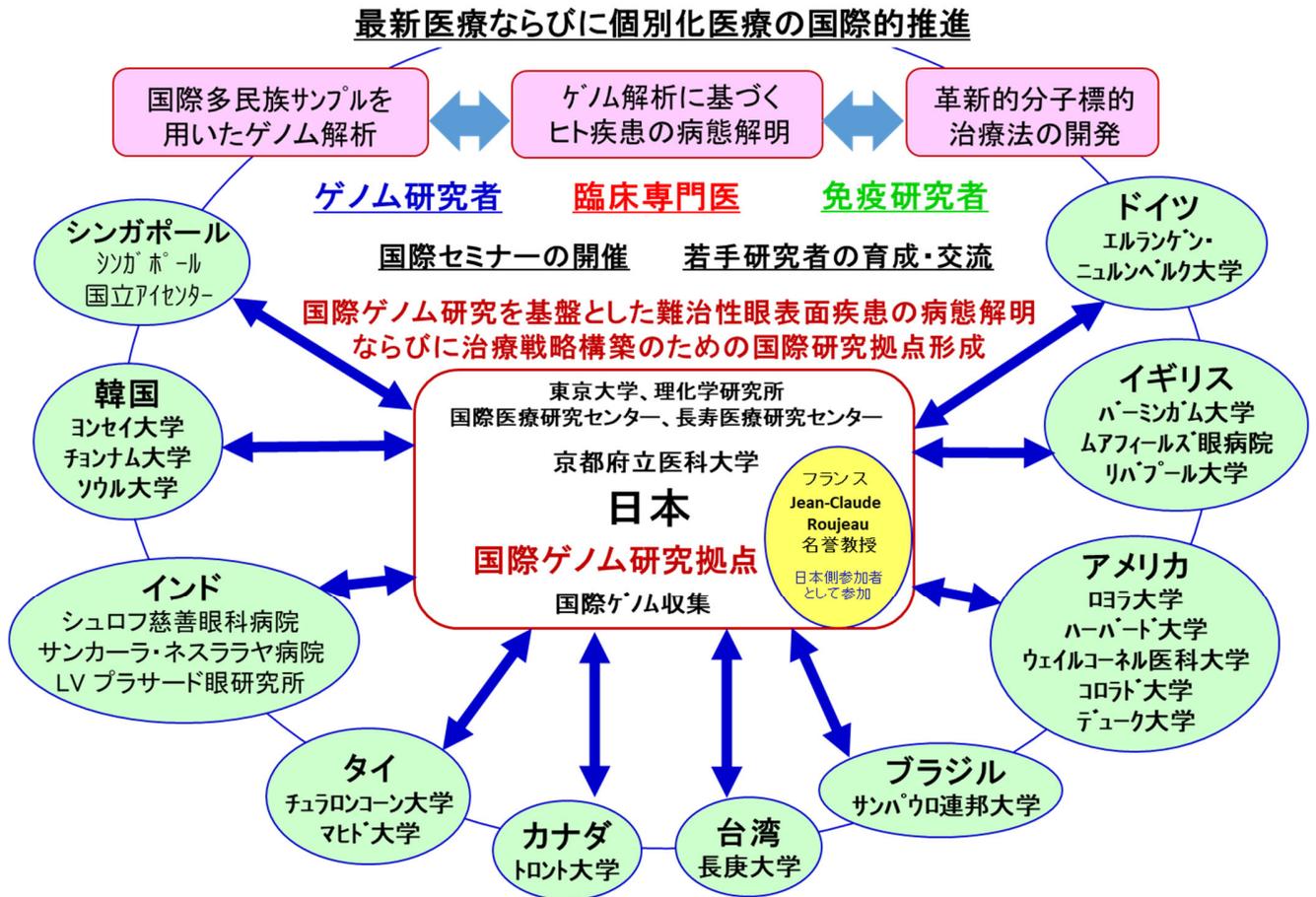
本研究事業では、日本の若手研究者のみならず、共同研究相手国からも若手研究者が多数参加し、個別化医療を推進できる世界水準の若手研究者の育成に貢献できた。また、国内においても若手のゲノム研究者と、若手の臨床医との交流もすすみ、他分野の融合を図り、個の医療に貢献できる若手研究者の育成に貢献できた。

【8. 研究の背景・目的等】

京都府立医科大学は、薬疹を誘因とする難治性眼疾患である Stevens-Johnson 症候群（SJS）について、病因や病態の増悪因子となる遺伝子や蛋白等を次々と明らかとしてきた。本研究事業による国際共同研究は、SJS の疾患関連遺伝子探索と病態解明を国際的に展開し、疾患発症予防、個別化医療の推進、新規治療につなげることを目的として実施された。

【9. 成果・今後の抱負等】

本研究事業で築きあげてきた 11 か国のネットワークを維持し、国際共同研究を継続することにより、難治性眼疾患に対する発症予防や個別化医療、新規治療につなげていくとともに、難治性眼疾患に対する診断・治療の国際レベルの向上に貢献していきたい。



2020年2月初めに日本で開催した国際セミナーでの集合写真（日本で新型コロナウイルス感染症発生のため複数の参加者のキャンセルがでたが、多くの国際共同研究者が集まった）